

ADPISA 2026年度 シラバス

■ 基本情報

科目名	情報システムのプロジェクト・マネジメント	
科目番号	309	
担当講師	宮川裕之	
分類	必修	
科目総時間	7.5	
対面/OL 日数	1日	

■ 科目の説明

	情報システムのプロジェクトを、システムを作る側の管理技法ではなく、発注し判断する側（施主）の立場から見る科目である。施主が意図をどう翻訳し、プロジェクトの局面で何を判断し、何を守るかを扱う。意図翻訳ロス（意図・暗黙知が言語化されないまま失われる問題）、Slerとの3つの非対称性（情報・インセンティブ・時間軸）、判断の3軸（何を基準に・誰と合意して・何を守るか）を軸に、共通ケースを素材として、構想の翻訳から局面の判断までを手を動かして確かめる。位置づけは「観る（エントリ編）判断する（PM）→分析基礎で深める」。ITの知識は前提としない。	
授業の概要	・情報システムのプロジェクトを、発注し判断する施主の立場から一貫して捉えられる ・意図翻訳ロス・Slerとの非対称性・判断の3軸という枠組みで、上流の判断の勘所を掴める ・エントリ編で得た見方（要の情報・DIKS・ユースケース図・構造の5要素）を、判断の場面に当てて使える	
特色とメリット	・情報システムのプロジェクトにおける施主の役割と、特に関与すべき場面（構想・要件定義・全体を通じた判断）を説明できる ・意図翻訳ロスの構造を理解し、要の情報・ユースケース図・DIKSを使って構想をRFPの骨格に翻訳できる ・プロジェクト進行中の局面で、構造の5要素の変化とDIKSの見立てから「何を守るか」を判断できる ・Slerとの3つの非対称性（情報・インセンティブ・時間軸）を踏まえ、判断の3軸で自らの判断を言葉にできる	
学習目標		
受講の前提条件	情報システム（エントリ編）の履修を前提とする3つの力・DIKS・要の情報・ユースケース図・構造の5要素などを既習として用いる。ITの知識は前提としない。	

■ 学習設計（内容と時間の対応）

各学習活動の内容と時間（分）を記入してください。合計が科目総時間と一致するように設計します。

回	学習内容	時間（分）	種別	備考
1日目 事前学習	・個別学修資料（講義メモ：第1～6章）の通読 ・第6章末「事前に考えておく問い」への書きかけメモ ・AIチューターとの対話	120	個別学修	講義メモ・AIチューター
1日目	共通ケース「A社のDX構想」（設備保全会社）を素材に、施主として意図の翻訳と判断を演習（5コマ） ・① 共通ケースを施主として読む（関与点、言葉にならない意図・暗黙知） ・② 演習①「意図の翻訳」：構想を要の情報・ユースケース図・DIKSでRFPの骨格にする ・③ 演習②「プロジェクト中の判断」：構造変化分析で「何を守るか」を決める ・④ 発表と講評：判断の3軸とSlerとの非対称性に出会う ・⑤ 演習③「施主の専門性」：エントリ編とPMを束ね、分析基礎へ接続	300	対面	60分×5コマ／Miro
1日目 事後学習	・Miroボードの見直し、気付きシートの記入 ・AIチューターとの対話	30	個別学修	気付きシート
合計		450		

■ 参考文献

参考文献・オンライン科目	・ADPISA-E 情報システムのプロジェクトマネジメント個別学修資料（講義メモ） ・共通ケース「A社のDX構想」、AIチューター、Miro
--------------	---